

分担研究 : 小児インスリン非依存型糖尿病の実態と治療法、長期予後改善 に関する研究
(分担研究者 佐々木 望 埼玉医科大学小児科教授)

学校検尿における尿糖検尿システムの構築

研究要旨

地域での尿糖検尿システムを有効なものとするために、現状の検尿システムの把握し、精検方法とフォローアップ体制を確立することを目的とし、県医師会学校医会のもとに、糖尿病管理委員会を設置した。アンケートから生徒・学童の 99%以上が検尿を実施し、尿糖陽性者が学校側から精査を勧められていた。しかし、精査結果、治療経過などは今回明らかにできなかった。さらに、調査をすすめ 12 年度には検診システムを構築する予定である。

分担研究者 佐々木 望
埼玉医科大学小児科教授
研究者 吉田孝子 同助手

A. 研究目的

学校での尿糖検尿システムが開始されてから、多くの学童生徒が尿糖陽性のため精査受診を行っている。しかし、その後、診断、糖尿病頻度、および、治療状況は明らかではない。地域での尿糖検尿システムを有効なものとするために、現状の検尿システムの把握し精検方法とフォローアップ体制を確立することを目的とした。

B. 研究方法

1.現状の検尿システムを把握するために、埼玉県各自治体の教育委員会へ実施状況についてアンケートを実施した。アンケートは旭川

医大小児科、伊藤善也氏のアンケートを用いた。アンケート内容は

- 1) 学校検尿を総括する委員会設置の有無。
- 2) 尿検査施行施設。
- 3) 尿糖検査の回数。
- 4) 保護者への結果報告。
- 5) 精査対象の受診の有無と精査結果の把握の有無。

などである。

2. 尿糖検査受診率および陽性者頻度について各自治体へアンケートを実施。

3. 平成 5 年から 11 年までの病院受診者の診断結果、および、治療、観察状況についての把握。

埼玉県内、内科、小児科へのアンケート調査。

4. 平成 12 年ど以降の診断結果の把握および治療経過の把握。

精査基準の作成、診断、治療経過用紙の作成。

C. 研究結果

1. 現状把握のためのアンケート調査結果

93の自治体から100%の返答を得た。成績の一部を図に示す。学校検尿を総括する委員会は95%の自治体で設置されておらず、設置されていたのは5%に過ぎなかった。

尿検査施行施設については、96%が検査センターに依頼し、病院へは2%、その他2%であった。今回は各施設での陽性基準は確認しなかった。

スクリーニングの回数については、2回実施が97%、1回、3回および4回実施が1%ずつであった。

タンパク尿の検査と一緒に実施しているので、尿糖検査の回数のみではない。

保護者への結果報告については、陰性者を含め72%が保護者へ報告され、陽性者のみの報告が15%、養護教諭の判断によるものが8%であり、5%は不明であった。

精査対象の受診状況、精査結果は把握されていない。

2. 尿糖検査受診率および陽性者頻度について

現在、複数の自治体から回答が得られているに過ぎないが、学童生徒のほぼ99%が尿検査を実施している。全自治体での状況を解析中で尿糖陽性頻度を明らかになることが期待される。

3. 平成5年から11年までの病院受診者の診断結果について、

26施設から回答を得ている。6施設から6名の精査結果が得られた。さらに、詳細を該当施設に確認中である。

4. 12年度以降の診断結果の把握および治療経過の把握について

尿糖陽性者受診後の精査結果、および治療計画の記入用紙を作成した。

D. 考察

学校検尿による糖尿病のスクリーニングにより多くのNIDDM症例が発見されている。しかし、横浜市、福岡市、東京都の一部、熊本市や千葉市などの市町村単位では、スクリーニング体制はほぼ確立している。しかし、県単位では、高知県、三重県などが確立を目指しているにすぎない。我々は、埼玉県での確立のためのスタートとして、県医師会学校医会のもとに、小児糖尿病管理委員会を設置した。その後、委員会を開催し、自治体での実施状況や精査結果などを把握することをスタートした。現時点での調査結果では、平成5年から11年までの精査結果、および患者の発症頻度などについては明らかにすることはできなかった。さらに、調査をすすめ、検尿成果を明らかにしたい。今後、スクリーニングがほぼ確立している市町村での方法で埼玉県で取り入れられる方法を導入したい。

E. 結論

県下での尿糖スクリーニング以後の精査状況が把握されていない状況が明らかとなった。より、詳細な調査を行い平成11年までの精査状況を明らかにし、12年度では、検診システムを完全なものにしたい。

F. 研究発表

1. 吉田孝子、佐々木 望、森野正明、荒川浩、甲田直也、藤塚聡、

大日向薫、安田正、富田有祐、中村泰三：埼玉県における学校尿糖スクリーニングの現状。10月30日(日)浦和市

2. 佐々木望：埼玉県での学校検尿検診システム構築への障害と解決の糸口。第2回学童糖尿病検診研究会。東京。6月11日。1999

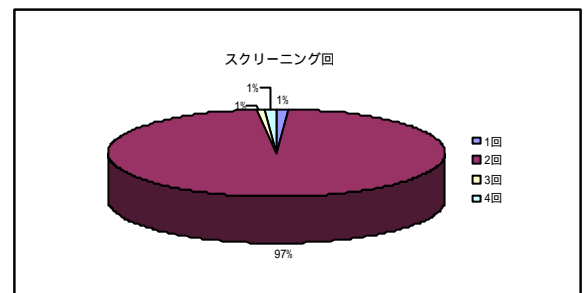
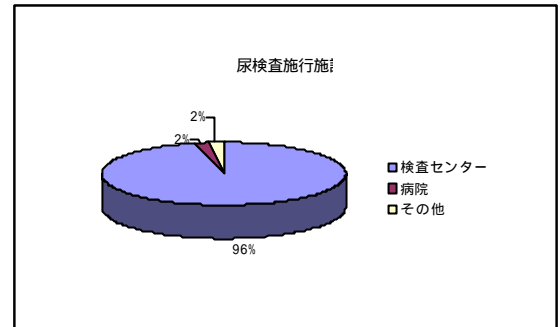
3. 雨宮伸、望月美恵、小林浩司、横田一郎、内瀧安子、佐々木望、松浦信夫、小児インスリン治療研究会：前方視的研究におけるHbA1cの標準化の検討。第42回日本糖尿病学会。東京 5月15日。1999

4. 雨宮伸、望月美恵、小林浩司、横田一郎、内瀧安子、佐々木望、松浦信夫、小児インスリン治療研究会：前方視的研究におけるHbA1cの標準化の検討。第42回日本糖尿病学会。東京 5月15日。1999

5. 宮本茂樹、佐藤浩一、今田進、雨宮伸、佐々木望、松浦信夫。第42回日本糖尿病学会。東京 5月14日。1999

1.論文発表

小竹文秋、吉田孝子、樫山明美、石坂仁、宮路太、大竹明、佐々木望：清涼飲料水を多飲し、ケトアシドーシスを来したインスリン非依存型糖尿病の12歳肥満男児の1例。小児科臨床 1683-1686、1999



図

